



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R5 CS通信No.10 R5.9.20



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

餅ノ沢遺跡で鯨ヶ沢町の歴史文化を学ぶ



8月23日(水)西海小第6学年児童14名が、岩木山ろくに眠る縄文時代の大型集落餅ノ沢遺跡を訪ね、鯨ヶ沢町の歴史文化を学びました。

総括学芸員の中田書矢氏を講師に、餅ノ沢遺跡の石棺墓と大型竪穴住居跡について学びました。

石棺墓は、骨を取り出して、つぼなどに入れ、別な場所に埋めるので、石棺墓の中は空であることがわかりました。

また、大型住居は、長さ28メートル以上もあり、これは三内丸山遺跡の長さ32メートルの住居に匹敵するというものでした。子どもたちは、講師の指導により、大型竪穴住居跡に実際に立ってみて大きさを実感していました。

この日のふるさと学習には、地域学校協働活動推進員の工藤律子さんの声かけで、学校支援ボランティアが4名集まり、支援の必要な子どもに寄り添い、一緒に話を聞く等学習支援を行いました。

学校運営協議会委員による学校訪問

学校運営協議会が毎年行っている各校への学校訪問が、9/5 西海小学校(前号で紹介済)、9/13 舞戸小学校、9/14 鯨ヶ沢中学校の日程で実施されました。

[舞戸小学校]



今年度の経営方針として、子どもの声を聴くこと、子どもが、自分自身と社会や地域とのつながりを見出すような学習を追及すること、特別支援教育の充実、ケース会議の充実を掲げていて、全教職員で協力して取り組んでいるということでした。

〈委員の感想〉

- タブレットを全校児童が使いこなしていることに驚いた。これからも続けてほしい。
- 授業参観では、どの学級の児童も真剣に授業に取り組んでいる様子が見受けられた。
- 児童の反応が活発になっている。自己表現がしっかりできるように指導している。
- 約束やきまりを守り、整然と給食の準備をしている。など

[鯨ヶ沢中学校]



第1学年は、習熟度別少人数指導に取り組んでおり、2クラスの生徒を3つの小集団に分けて、3人の先生が授業を担当し、指導していました。

習熟度に合わせた指導により、わかる喜びやできる喜びを味わいながら学習していました。

〈委員の感想〉

- それぞれの生徒に対応した授業を先生方で工夫して行っている。
- 生徒が楽しそうに授業を受けている。
- 校長の学校経営方針が先生方に浸透し、授業が成立している。何より指導の成果が出ている。
- 保護者や関係機関と連携しながら指導していることが分かった。など